

## 茨城県の児童・生徒の体格と疾病

### まえがき

この報告書は、統計法による指定統計(第15号)として、文部省が毎年実施している学校保健統計調査の昭和63年度における調査結果概要を文部省が速報値公表したなかから本県分をとりまとめたものです。

### 調査の概要

この調査は、学校保健法により毎年定期的に行われている健康診断(4月～6月に実施)の結果に基づき、児童・生徒及び幼児の発育並びに健康状態を明らかにして、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的としている。

調査の対象は、調査実施校(文部大臣があらかじめ指定する学校)に在籍する満5歳から満17歳(昭和63年4月1日現在)までの児童・生徒及び幼児の一部である。

調査事項は、児童・生徒の発育状態(身長・体重・胸囲及び座高)と健康状態(栄養状態、視力、聴力、う歯、内科等の疾病・異常)について行われた。

### 調査結果の概要

#### 1. 児童・生徒及び幼児の体格(表1～3)

発育状態調査は、県内の幼稚園、小・中・高校の計195校、5歳から17歳までの13,450人が対象とされた。

男子の身体は5歳が111.0cm、11歳が144.5cm、14歳が164.5cm、17歳が170.7cmで、全国平均と比べると10歳で0.1cm低いほかは、同じか、0.1～0.4cm高かった。11歳が前年より1.0cmと最も大きな伸びを示し、各年齢間の身長差は12

歳と13歳の7.3cmが最も大きくなっている。

女子は5歳が110.2cm、11歳が146.2cm、14歳が156.3cm、17歳が158.0cmで、全国平均と比べると13歳が0.2cm低く、ほかは全国レベルと同じか、0.1～0.5cm高かった。11歳が前年より0.5cmと最も大きい伸びを示し、各年齢間の身長差は10歳と11歳の6.9cmが最も大きくなっている。

体重では、男子の5歳が19.4kg、11歳が38.3kg、14歳が53.5kg、17歳が61.9kgで5歳を除き各年齢とも前年より増えている。各年齢間の体重差は14歳と15歳の5.8kgが最も大きくなっている。

女子の体重は、5歳が19.1kg、11歳が39.1kg、14歳が50.1kg、17歳が52.7kgで各年齢で前年より上回っており、16歳が1.7kgと最も増えている。

体重での本県と全国平均値と比べてみると、男子の14歳を除き男女とも各年齢で全国平均を大きく上回り、身長の差よりおおむね大きいことから、本県の児童・生徒の体型は「ガッチャリ型」といえそうである。

また、胸囲と座高は高校生男女の座高が全国平均を下回っているほかは、ほとんどの年齢で全国平均以上の数値を示し、中でも12歳男子の胸囲は1.1cm多い74.6cmとなり、たくましさをうかがわせている。全体的にはほとんど横ばい状態で、各学年とも伸び率が鈍化している。身長は0.1～0.3cm程度の伸び、体重は0.2～0.6kg程度の増加にとどまっている。

子供たちの親が通っていた25年前(昭和38年度)に比べると、中学生の14歳男子で身長は8.5cm高い164.5cm、体重は8.0kg重い53.5kgとなつた。この数値は、25年前では高校生の16歳のレ

# 昭和63年度学校保健統計調査結果報告書の概要 — 指定統計第15号 —

ペルだった。

女子も25年前より身長、体重とも上回っている。高校生は身長で3~4cm高く座高で0.3~0.5cm低くなっているのは、親の世代よりかなり足長の体形になっていることがうかがえる。

## 2. 児童・生徒及び幼児の疾病・異常

疾病・異常の被患率別状況では、う歯(むし歯)の被患率が最も高く、幼稚園が81.33%, 小学生が93.46%, 中学生が91.72%, 高校生が

95.67%といずれも全国平均を上回っている。

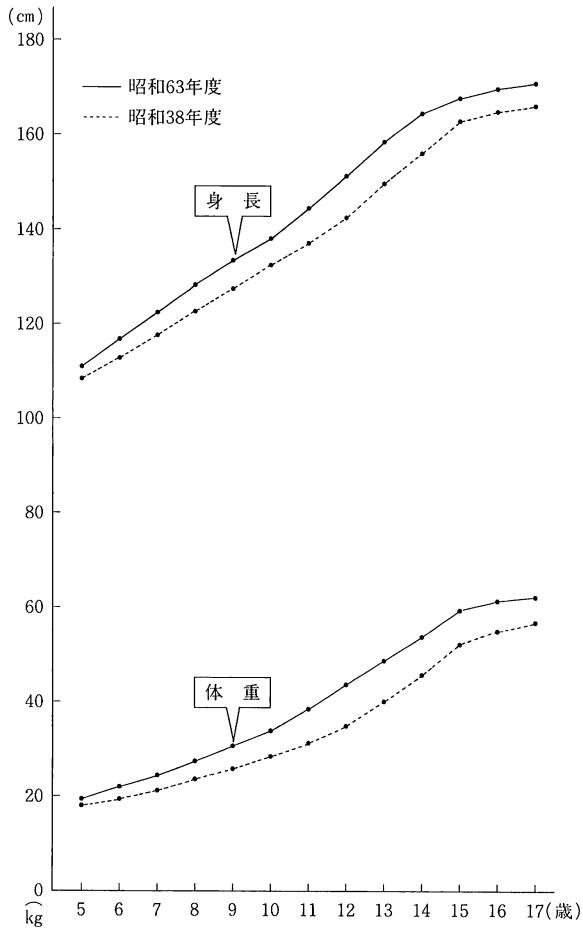
次いで、裸眼視力1.0未満が多く、幼稚園が28.31%, 小学生が17.51%, 中学生が35.38%, 高校生が52.38%となっている。

肥満傾向やタンパク検出は、100人当たり1人程度、12歳のみ検診の永久歯の1人当たりむし歯は男子4.32本、女子5.06本で平均4.92本であった。

(統計課・人口労働グループ)

図一 25年前の児童・生徒との体格比較

図一-1 男 子



図一-2 女 子

